

呉羽丘陵を越えて(富山舟橋～峠茶屋～願海寺)

# 旧北陸街道を歩く



「旧北陸街道を歩く」実行委員会

ごあいさつ

## 「旧北陸街道を歩く」事業について



実行委員会 会長  
山田 実穂

旧北陸街道は、古くから私達の文化や生活を支えてくれた大変貴重な歴史の道で、特に呉羽山を越える峠に峠茶屋と言う地名が残る七面堂や馬頭観音などの史跡も多く、歴史的価値の高いところでもあります。また近年、富山城址の石垣の積み替えや千歳御門の移築が行われ、さらに呉羽山で散策路として旧北陸街道の整備や北と南を結ぶ夢の架け橋などが実現しようとしております。

しかし多くの史跡は、都市化の進展に伴って忘れ去られ、やがて朽ちていくような気もしております。そこで私達は、富山城址とそれにつながる旧北陸街道を一体的に考え、線的な広がりを持つ観光地として蘇らせ後世へ受け繋げていきたいと考え、平成19年12月、関係者による実行委員会を組織したところであります。

先ずは、歴史的価値を知る事が最も重要と考え地元郷土史家の指導のもとに「旧北陸街道に関する沿線ガイド」(富山舟橋～峠茶屋～願海寺)を作成中であります。さらに、旧北陸街道を市民の方々と一緒に歩き、体感し、そして再認識するため、来る11月8日に第1回目の「旧北陸街道を歩く」・歴史探訪(富山城址から呉羽山峠茶屋間)を行うことになりました。

この事業は、今年度を皮切りに3年間で旧北陸街道(富山・小杉間)と呉羽丘陵を歴史探訪しようとするもので、この旧北陸街道が京都や江戸まで繋がっている事に夢めぐらせ、この事業が有意義に実施できますよう皆様のご参加、ご支援をお願いするものであります。

おわりにこの事業の立ち上げに大変ご尽力をいただきました富山市をはじめ北日本新聞社、富山商工会議所、呉羽商工会並びに地元自治会、ふるさとづくり推進協議会の方々にお礼を申し上げますとともに、今後の事業推進に一層のお力添えを賜りますようお願いを申しあげ、御挨拶といたします。

## 旧北陸街道とは…… 歩いて探ろう

北陸街道は、北国街道とも言い、また古代・中世の呼称に由来して北陸道とも記されていますが越中を東西に横切る江戸時代を中心街道で加賀藩前田家の支配状況の変化によって標高、経路に変遷がありました。

文禄4年(1596)越中は前田家の加賀藩領となり、慶長2年(1597)前田利長の富山居城、同14年(1609)富山町大火による城下町高岡の建設、寛永16年(1639)文藩富山藩が誕生します。

この頃の北陸街道は、正保4年の(1647)「越中道記」によれば越後から越中新川郡境村(現朝日町)に入り、泊町、入瀬町、三日市(黒部市)、魚津町、滑川町、東水橋(富山市)、西水橋村、町新庄を経由して富山町に入ります。そして西へは、津通川舟橋を渡って婦負郡愛宕村から五福古城道、射水郡花木新、墨河村、三戸田(水戸田)を経て越前郡今石動町(小矢部市)から俱利伽羅峠を越えて加賀に至ると記されています。

しかし慶長14年(1609)の高岡町成立によって途中の追分茶屋から新たに願海寺～大手峠(小杉町)～小杉新(射水市)～高岡町～今石動町が北陸街道となり、機能のなくなった道を巡見使街道、水戸田往来などと呼ばれました。

その後、万治3年(1660)富山町が富山藩領となりますが、その2年後の寛文2年(1662)加賀藩が交通制度を確立して富山町を通らない滑川町～東岩瀬～下村(射水市)～大手峠(小杉町)～小杉新(射水市)～高岡町～今石動町を新しい北陸街道として加賀藩主の参勤交代路としました。

幕末の「増補大路水系」では、先の富山町～富山舟橋～五福～追分茶屋～願海寺～大手峠～小杉新のルート「富山往還」と呼び、古い北陸街道と新しい北陸街道を結ぶ連絡路の機能を果たしました。

このように北陸街道は、時代の流れに伴って変化をしていますが私たちの住む

## 旧北陸街道ルート



呉羽丘陵周辺では「越中道記」に書かれた「北陸街道」、また連絡路である「富山往還」。この二つの名前と呼ばれた道が通っているのです。

どこがその交叉地点でしょうか。当時の道や旅人、沿道の人たちの生活を知る遺物・遺跡がかなり残っています。この旧街道を歩いて、見て、考えて、私たちの住む地域の歴史を楽しく再発見しましょう。

## ルートの見どころ

平成20年度	富山城址 ～ 舟橋 ～ 愛宕 ～ 五福 ～ 呉羽山峠茶屋 (約6キロ)				
	1富山城下での北陸街道	2舟橋	3舟橋～五福	4五福	5呉羽山峠
	富山城下での北陸街道は富山城の外堀を迂回するようになり、舟橋街道とも呼ばれています。高岡小幡川を北へ上ると七面堂を経て地所に至ります。舟橋は、かつて津通川が流れていた場所で、舟橋が架けられ城下高岡の玄関口でした。	舟橋の築造とされた舟橋は、津通川を渡るための4段の舟を2隻の舟で渡り、上り舟を渡り、入舟を渡しました。舟橋の築造が2層化されています。	舟橋には、東水橋、愛宕神社が祀られています。	五福には、呉羽山古寺があり、信玄公の愛馬(厚背古馬)が祀られているという説があります。また、津通川には富山散策路の標高、「願海寺御門」の石垣があります。	呉羽山入口に、富山藩自治会館の古印「建立正保」の石碑があります。また、富山藩士長村新八が七面大菩薩をまつる七面堂を建立し、御門や三層塔などと共に大家様文化とされます。
平成21年度	呉羽山峠茶屋 ～ 追分茶屋 ～ 吉作 ～ 願海寺 ～ 手峠 (約6キロ)				
平成22年度	呉羽丘陵 縦走 前田家の「御廟所」「呉羽山峠」「白鳥城」「杉谷古墳」ほか (約6キロ)				

**日 時**

日程 平成20年11月8日(土)

時間 9:30より14:00まで

※小雨決行

**歩行区間**

富山城から舟橋、寛容、五福、呉羽山幹茶園まで約6 KM

**集合場所**

**受付時間**

A 富山城址公園南側広場 (県道富山高岡線に面した広場)

集合時間：9時00分まで

※ウォーキング終了後、ゴール地点からスタート地点までバスで送ります。

B 呉羽山、富山観光ホテル駐車場

集合時間：8時45分まで

※受付後、ウォーキングスタート地点までバスで送ります。

**参加費** (当日、受付にて集金します)

大人……1,000円

小学生以下……500円

**解散場所** 富山観光ホテル

※城址公園に集合された方には、送迎バスの準備がございます。

**20年度のコース**



**申込方法**

○ハガキに、氏名、住所、性別、年齢、参加人数、集合場所、2人以上の場合は代表者名をお書きの上投函してください

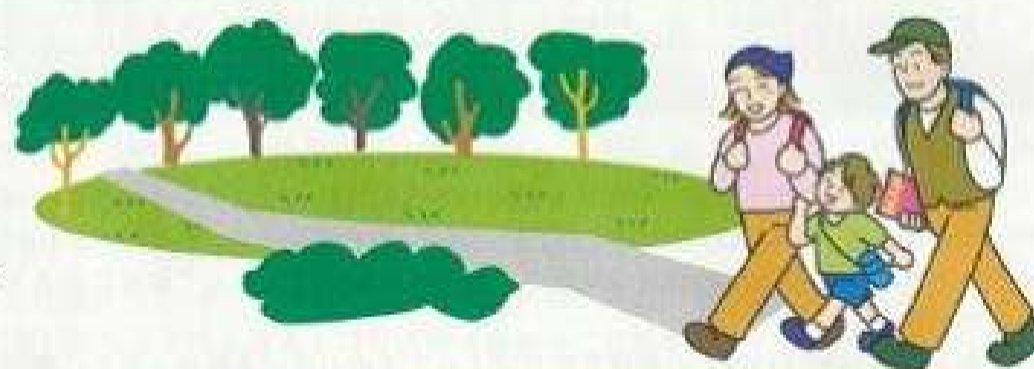
**申込先及び問合せ先**

「富山観光ホテル・旧北陸街道を歩く」実行委員会事務局  
〒930-0138 富山市呉羽町7538 TEL.(076)431-5551

**申込締め切り** 10月25日(水)まで

**その他の事項**

- ・集合場所までの交通費(駐車料も含む)及び昼食は、各自ご負担願います。
- ・参加者には飲料、富山観光ホテル内利用券、地場産品などを進呈。
- ・参加者へは、詳細な実施日程などを11月1日迄に郵送いたします。



**私たちも応援します**

**富山市観光振興課長 メッセージ**

**新たな挑戦・「旧北陸街道を歩く」へ**

富山市商工労働部観光振興課長 上谷 修

このたび開催が決まった「旧北陸街道を歩く」は、呉羽山観光協会が中心となって、「旧北陸街道に関する沿線ガイドブック」の作成を始め、実施に向け準備を進められてきたもので、イベントを通じて多くの方々に北陸街道の魅力を発見して頂けるものと考えております。

旧北陸街道は、史跡や神社、寺院が点在し、歴史的価値も高いとされており、古くから地域の文化や生活を支えてきたこの街道の価値を次の世代に受け継いで頂き、同時に歴史探訪のための観光コースとして大切に守り育てて頂きますようご期待申し上げます。

**郷土史家の先生方**

- 五十嵐 顕 房 先生
- 須山 盛 彰 先生
- 武内 淑 子 先生
- 舟竹 孝 先生
- 保科 齊 彦 先生
- 正橋 剛 二 先生

**協賛金のお願について**

「旧北陸街道を歩く」実行委員会では、事業を推進するにあたり、趣旨にご賛同いただける方々から協賛金を賜りたいと思っております。なにとぞご協力を頂きますようお願いいたします。

- 1. 協賛金(企業など団体) 1口あたり 10,000円
- 2. 協賛金(個人) 1口あたり 5,000円

なお協賛金を頂いた方々のご芳名は、次号「旧北陸街道を歩く」広報誌(10月末頃発行予定)に掲載し、約2万世帯(呉羽地区、五福地区、桜谷地区)へ配布いたします。

(この件に関する問い合わせ先) 富山観光ホテル TEL.076(431)5551  
呉羽山観光協会事務局(山口まで) TEL.076(436)0611